

## 広色域・広DRかつ低ノイズ次世代画像システムの基礎研究

### [1] 組織

代表者：下平 美文  
(静岡大学 創造科学技術大学院)  
対応者：川人 祥二  
(静岡大学 電子工学研究所)

### [2] 研究経過

画像機器の進歩に伴って、下界の状態を忠実に画像として取得したいという強い要請を持つ分野が育ち始めている。例えば、医療診断の支援、工業デザイン、デジタルアーカイブ、電子商取引等々の分野が挙げられる。

本プロジェクト、「次世代高忠実画像システム研究会」の開催は、本年度が初めてである。開催の主旨は、呼びかけ人二人の持つ高色域画像技術および広ダイナミックレンジ技術を融合し、次世代の画像システム構築を目指すこと、および標準化を目標にした活動を始めることである。従って、開催にあたっては下平および川人がこれまでに関係していた研究会の主旨に賛同する学内及び団体・企業の研究者などに呼びかけをして参加者を募った。

以下に、研究会活動状況の概要を記す。

研究会開催日：平成22年11月12日

開催場所：静岡大学 電子工学研究所

開催時間：13時から18時

講演者数：15名

参加者数：約25名

研究会の最後には、参加者が下平、川人の両研究室見学を行った。

### [3] 成果

#### (3-1) 研究成果

関心を持つ、撮像、表示、システムに関連する横に広い分野の研究者が一堂に会して、忌憚のない意見交換を行うことが出来た。そのことが、本会の主旨に合致して、次世代の画像システム構築の必要性をお互いに刺激して強く認識することが出来た。標準化への取り組みも重要であることを認識した。この

ことは、従来はそれぞれの得意とする分野のみに立脚した考え方に縛られる顕著な傾向が見られたことに対して、新しい立脚点にたった考え方の必要性を明らかにした。この考え方は、従来のものと発想の異なる大きな成果である。

#### (3-2) 波及効果と発展性など

異なるデバイス分野の研究者の間で、連携する機運が生まれ、幾つかの具体的な活動に繋がっている。研究者ネットワークの繋がりが緊密になると共に、具体的な活動が開始されている。

\*病院における遠隔診断支援機器開発のグループが生まれた。

\*ベンチャー企業、本学、医大が協力して遠隔診断支援機器開発に関する大型予算へ申請を行った。

\*公共事業体と企業が連携して、次世代のカメラシステム製作の動きが生まれた。

\*本学とディスプレイ企業が協力して、著名な学会に新しい画像システムの一例として投稿を行った。

\*標準化についての準備活動が開始された。

この様に、本プロジェクトは、学内外研究者との交流が飛躍的に活性化し、次世代画像システム構築に向けてそれぞれの立場で推進し始めることが出来た。

### [4] 成果資料

(1) 研究会資料、“第1回次世代高忠実画像システム研究会” (部内資料として報告済み)

## 出張報告

氏名：小宮 康宏

所属：オリンパス(株) 東京都八王子市久保山町 2-3

期間：2010年11月12日

用務先：静岡大学 電子工学研究所

用務内容：「第1回次世代高忠実画像システム研究会における招待講演のため」

主たる対応者：下平美文 川人祥二

氏名：川端 秀樹

所属：(株)プロスパーククリエイティブ 東京都中央区銀座 2-2-17 有楽橋ビル 5F

期間：2010年11月12日

用務先：静岡大学 電子工学研究所

用務内容：「第1回次世代高忠実画像システム研究会における招待講演のため」

主たる対応者：下平美文 川人祥二